

単元に係る児童の実態

本学級の児童は、社会科において地図や地球儀など具体物を使った学習に意欲的である。これまで、「世界の中の国土」では世界の大陸や海洋、日本の国土の広がりや領土などの学習を通して、意欲的に調べることができた。

社会科の学習についての実態を調査したところ以下の結果となった。

	好き	どちらかという好き	どちらかというきらい	きらい
発表するのは好きですか。	5人	13人	5人	2人
調べたことを地図や新聞にまとめるのは好きですか。	8人	13人	3人	1人

本学級の多くの児童は、調べたことをまとめる作業が好きであると答えた。したがって、学習問題の解決のために白地図に書き込んだり、既習事項を関連づけて考えたりする活動が学習の定着につながると考えられる。一方で、半数の児童が自分の考えを発表することが嫌いだと答えた。児童が自信をもって発表するために、資料を読み取る時間を十分に取って、自分の考えをノートにしっかりと書かせた後、机間指導で評価やアドバイスをしてから指名していく。

単元のゴール

○日本各地の気候の特色（四季の変化など）を理解するとともに、季節風が気候に及ぼす影響、気候と人々のくらしの関わりを考察することができる。

【知識・技能】

- ・梅雨、台風、季節風は我が国の気候を特色づけている現象であり、人々のくらしに大きな影響を及ぼしていることを理解すること

【思考力・判断力・表現力】

- ・日本各地の気候の特色と人々のくらしへの影響を調べるために、学習問題や予想、学習計画を考えて適切に表現すること
- ・日本の地図と気温、降水量のグラフなどの資料を活用して、日本の各地域の気候の特色や季節風の影響等について調べたことを白地図にまとめる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・我が国の気候の特色を理解し、気候の特色と人々のくらしとの関連などについて関心を持って調べること

課題を追究したり解決したりする活動

- 自分たちの生活やさまざまな資料を関連づけながら、気候の特色をつかんでいくように指導する。
 - ・気温・降水量のグラフなどの資料を活用する。
 - ・資料から読み取ったことを白地図にまとめる。
 - ・四季の変化を表した写真や桜前線を活用する。
 - ・気候の特色が現れた映像を活用する。

主体的な学びに向けて

- ・学習内容・活動に合わせた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促すようにする。

対話的な学びに向けて

- ・自分の考えをノートにまとめる時間を確保し、話す資料を残す。

深い学びに向けて

- ・「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題を追究したり、解決したりする活動をする。

社会的事象の見方・考え方

【時期や時間の経過】

- ・春夏秋冬の四季がはっきりしていること、四季の変化に応じて梅雨や台風、雪が降る時期があることに気づく。

【位置や空間的な広がり】

- ・日本には南北に長いことから、暖かい地域や寒い地域があることに気づく。

【相互関係】

- ・太平洋側と日本海側では大きく気候が変わること、南北に長い地形は寒暖差が大きいことについて理解する。

単元計画（3時間扱い）

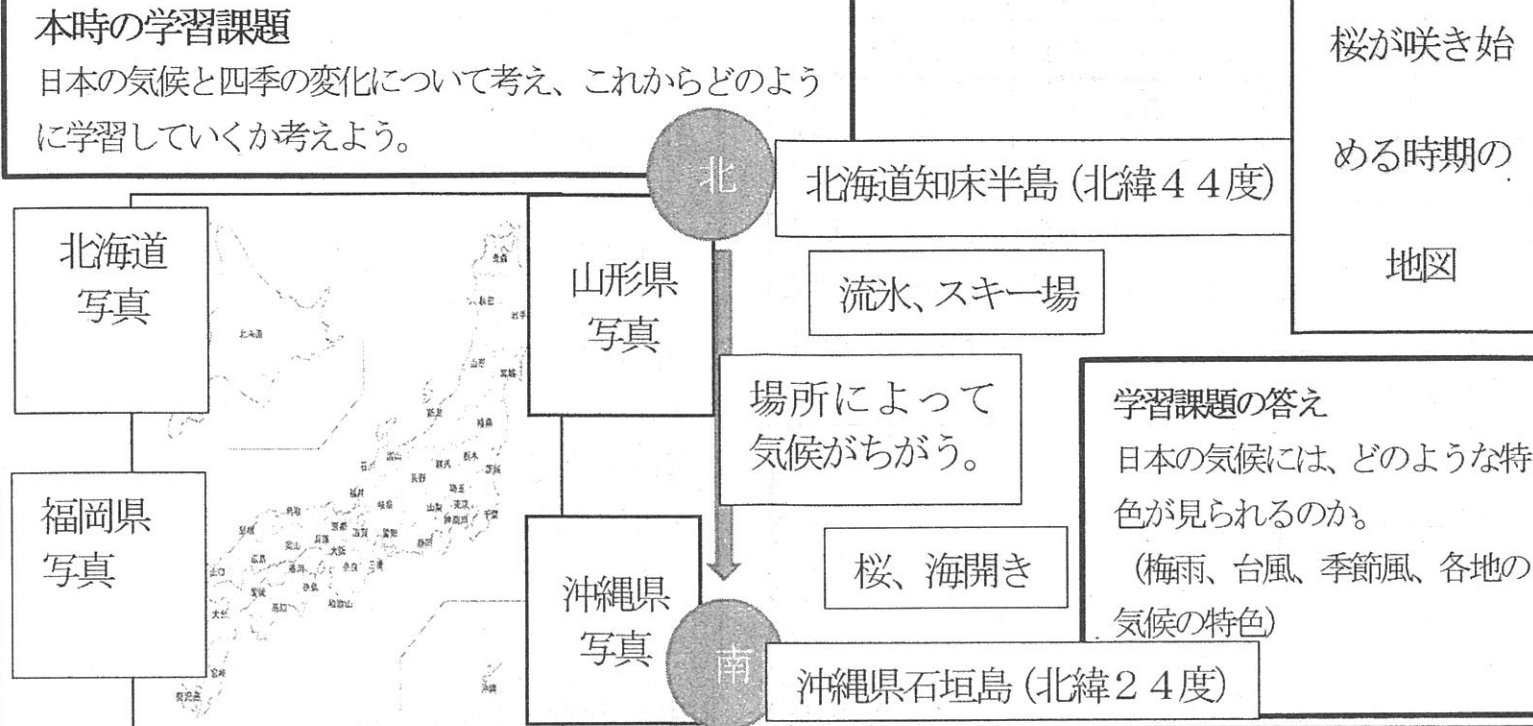
◎学習問題 ○学習課題 ◇学習問題の答え	◆各時間終了時の児童の姿
<p>1時間目（本時）</p> <p>○国土の気候の様子や、土地によって違いがあることについて興味・関心をもち、学習問題をつくろう。</p> <p>◇日本の気候には、どのような特色が見られるのだろう。</p>	<p>◆日本各地の気候の特色（四季の変化など）と人々のくらしへの影響について調べるために、学習問題や予想、学習計画を考えて適切に表現している。</p>
<p>2時間目</p> <p>○日本の梅雨、台風、季節風には、どのような特色があるのだろう。</p>	<p>◆梅雨、台風、季節風は、我が国の気候（季節）を特色づけている現象であり、人々のくらしに大きな影響を及ぼしていることを理解している。</p>
<p>3時間目</p> <p>○各地の気候には、どのような特色があるのだろう。</p> <p>○日本の気候の特色を白地図にまとめよう。</p> <p>◇日本の気候は、地域によって大きく異なる。梅雨や台風、季節風などが人々のくらしに大きな影響を与えている。</p>	<p>◆日本の地図と気温・降水量のグラフなどの資料を活用して、日本の各地域の気候の特色や季節風の影響などについて調べたことをまとめている。</p> <p>◆日本各地の気候の特色とそれぞれの地域の人々のくらしとの関連などについて意欲的に調べている。</p>

前単元の概要

前単元では、社会的事象の見方・考え方を働かせて、世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成などに着目して、地図や地球儀、各種の資料で調べ、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現することを通して、世界の中における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを学んだ。

本時の目標 日本の気候と四季の変化について考え、学習問題をつくる。

板書計画



今後の展開

期待する子どもの姿

- ・資料から課題の解決となる情報を読み取ることができる。
- ・自分の考えと他者の考えを比較・検討して、よりよい考えを導き出すことができる。

次時の学習課題

- ・梅雨、台風、季節風は我が国の気候を特色づけている現象であり、人々の暮らしに大きな影響を及ぼしていることを考える。

本時の流れ(授業スタンダード)

主体的・対話的で深い学びに向けて

【主体的な学び】の実現に向けて
・学習課題を設定し、問題解決型学習を取り入れる。
・自分たちの生活と関連づけて課題解決に生かせるよう展開を工夫する。

【対話的な学び】の実現に向けて
・写真や資料を読み取り、気がついたことや疑問を考え、自分なりにまとめてから意見交換できるようにする。

【深い学び】の実現に向けて
・地図や写真をもとに南北で気候が違ってくることに気づき、気温・降水量のグラフや資料を用いて、日本の気候にはどのような特色が見られるのか調べたいという意欲をもたせる。

問題発見

前単元の学習から日本列島は北半球にあり、日本の国土は南北に細長く弓のように伸びていることを知った。また、資料や写真から春夏秋冬と四季があることを想起させる。

そこで、本時の課題を提示し、学習の見通しを持たせる。

本時の学習課題

日本の気候と四季の変化について考え、これからどのように学習していくか考えよう。

【指導上の留意点】

- ・前単元の課題解決から、本時の問題を見いだせるようにする。

問題解決①

白地図に写真を並べながら、南から北まで同じ3月でも場所によって気候が違うことに気づく。また、南は温かく北は寒いという気候の特色に気づかせる。

学習内容

- ・同じ季節なのに様子がちがうこと。
- ・場所によって気候がちがうこと。

【指導上の留意点】

- ・白地図には都道府県名があらかじめ記入されたものを使用し、調べる活動がスムーズに進むようにする。

問題解決②

桜がさきはじめる時期の資料を読み取り、沖縄と北海道では咲く時期に差があることに気づく。

学習内容

- ・北海道と沖縄では、桜が咲く時期が4ヶ月も差があること。
- ・気候によって桜が咲く時期以外にも違いがあること。

【指導上の留意点】

- ・桜がさきはじめる時期の資料から、北海道と沖縄では4ヶ月の差があることに気づかせるようにする。

まとめ・振り返り

学習課題の答え
日本の気候には、どのような特色が見られるのか調べる。
(梅雨、台風、季節風が気候に与える影響)

本時の学習の振り返り(例)

日本は南北に細長いので、場所によって気候に違いがあることが分かった。これから日本の気候にはどのような特色があるのか調べたい。

次時につながる新たな問い

- ・梅雨、台風、季節風が人々の生活にどのような影響を及ぼしているのか知りたい。